

2022 年度事業報告書

公益財団法人 広島YMCA





2022 年度はフィリピンワークキャンプ再開に向けた準備をスタート

ひとりがよくなると世界はきっこう変わる。
ひとりが「よくなる」と、どんなコトが起きるだろう。
ひとりが「よくなる」と、
その人と出会った誰かがうれしくなる。
つまり、その人もきっこう「よくなる」。
そして「よくなる」の繰り返しは社会や世界を
よりよくなっていくチカラになると思うのです。
その人と出会った誰かが「よくなる」
そんな出会いとつながりを YMCA は
これからも大切にしたいと考えています。
「よくなる」の連鎖はやがて
社会や世界を変えていくチカラとなっていく。
そしてきっこう平和を形にしていける原動力となっていく。

SDGs × YMCA

グローバル・パートナーシップ

YMCA はポジティブネットのある 豊かな社会を創造します。

持続可能な開発目標（SDGs エス・ディー・ジーズ）とは、2015年9月に国連サミットで採択された2030アジェンダの開発目標です。17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（Leave no one behind）世界の実現を誓っています。

国内外で広がる貧困や格差、紛争や気候変動の課題、子どものいじめや虐待など、世界の共通課題に向けて、YMCAも国内外のグローバルなパートナーシップを活用し、多様な連携を通じて世界を変える一翼を担います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



Vision

YMCA が実現したい世の中の姿

互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

— Positive Net —

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、
善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。
課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。
私たち日本の YMCA は、グローバルなネットワーク基盤を活かして
ポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

Value

YMCA がビジョン実現に向けて、提供を約束する価値

したい何かがみつき、誰かとつながる。
私がよく、かけがえのない場所。

みつかる つながる よくなる
Encounter Connect Transform

Personality

YMCA が備えているべき個性、らしさ

心をひらき、わかち合う。
前向きで、まわりを惹きつける
魅力を持つ。

ごあいさつ

会員の皆様、いつも広島YMCAの公益事業をお支え下さり、誠にありがとうございます。

2020年の年明けからの世界的パンデミック「コロナ感染症」は何度も新たな変異株を生み出し、その影響は2022年度も続きました。

2022年度も広島YMCAの公益事業である、国際交流、国際協力、そして平和教育の多くは対面式で開催することができませんでした。そんな中、広島・ホノルル青少年交流プログラムLet's Get TogetherはWeb会議システムを使いお互いの顔を見ながらの交流を、青少年平和セミナーは「ユース平和ミーティング」と少し形を変えて、同じくWeb会議システムを使い国際リーダーたちが発信・交流・学びの場を創り出してくれました。コロナ禍にあって、広島YMCAの使命を止めることなく、発信することができました。この国際リーダー会のメンバーは対面式で行われた全国リーダー研修会や日本YMCA大会に参加してもらうことができ、ユースリーダー育成が少し復活した年でもありました。

一方、オンラインでの活動が続く中、毎年3月に行っておりましたフィリピン・ワークキャンプは、今年も広島ロータリークラブ様からのご寄付を活用しながら、スタッフ2名の派遣ではありましたが現地での活動を行うことができました。

終息の見えないロシアによるウクライナ軍事侵攻ですが、多くのウクライナの方々がYMCAのネットワークを使い日本にも避難されました。我々広島YMCAも、広島に避難された方々のご要望にお応えし、皆様からのご支援を活用させていただきながら、日本語教育やお子様のお預かりなど実施いたしました。

2022年度新たな取り組みとして、自然災害の発生件数が急増していることから、子どもを対象とした「キッズ防災士」の育成キャンプを実施しました。また温かい国から日本語を学びに来ている留学生やウクライナからの避難者の方々に越冬支援として「毛布の配布」も行いました。

コロナ感染症が消え去ったわけではありませんが、常に地域の課題に目を向け、地域の方々と向き合い、広島YMCA活動を続けてまいります。

これからも皆様のお支えをよろしくお願い申し上げます。

広島YMCA 理事長 松井 敏

公益財団法人

広島YMCA 理事長 竹井 幸義



広島YMCA理事長
松井 敏



公益財団法人
広島YMCA理事長
竹井 幸義

■2022年度 公益財団法人 広島YMCA 活動実績

2022年

4/17.24 5/1	Let's Get Together オンライン交流会 (計3回)
4/27(水)	AMAZONみんなで応援プログラム2022年度版スタート
5/1(日)	ウクライナ緊急支援募金期間延長を確定(8/31まで実施)
5/5 (木・祝)	原爆の子の像建立記念式典 (広島女学院大学協力/職員有志)
5/9 (月)	留学生・折り鶴交流会の実施 (ユースボランティアリーダー)
5/17 (火)	ロータリークラブ ウクライナ緊急支援募金授与式
5/25 (水)	「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い2022を実施
6/16 (木)	原爆ドーム第1回保存工事資料・委託授与
6/19 (日)	核兵器禁止条約締約国会議 広島アピール実施(国際リーダー会)
6/29 (水)	TBS音楽の日協力 (広島ロケ・ヒバクシャ対談インタビュー)
7/5-8/25	ウクライナ避難者日本語教室第1期開催
7/29 (金)	第2回全国YMCAユース平和ミーティング主管
7/30-31 (土・日)	第1回防災プログラム主管
8/3 (水)	平和の灯ろう流し展
8/4 (木)	市民平和行進 (広島県被団協・広島県生協連協力)
8/5 (金)	核兵器禁止条約締約国会議とNPT再検討会議に向けて (NPO協力)
8/6 (土)	オンライン被爆ピアノ・バイオリンコンサート (NPO協力)
8/15-17 (月-水)	横浜YMCAキッズピースキャンプ受け入れサポート
9/21-10/31	ウクライナ避難者日本語教室第2期開催
9/23-25 (金-日)	第53回全国YMCAリーダー研修会 (ユースリーダー・スタッフ5名)
10/1 (土)	インガー・アンダーセン国連環境計画事務局長対話集会 (リーダー)
10/21 (金)	YMCAとのつながりを通して学ぶ日韓関係史 (オンラインミーティング)
10/29-30 (土-日)	YMCAせとうち「リフレッシュキャンプ」サポート
11/1-2023/2/28	広島YMCA国際協力募金 キックオフスタート
11/19 (土)	Amazonみんなでサンタクロースプロジェクト開始
	世界YMCA/YWCA合同祈祷集会 (主管)
11/23 (水・祝)	インターナショナル・チャリティーラン (雨天中止)
11/25-27(金-日)	日本YMCA大会 スタッフ・リーダー派遣
11/28-2023/2/6	ウクライナ避難者日本語教室第3期開催
12/11 (日)	YMCA国際協力募金・街頭募金活動
12/14 (水)	第3回全国YMCAユース平和ミーティング主管
12/19 (月)	第2回 ひとり親家庭のフードバンク支援活動

2023年

1/22 (日)	核兵器禁止条約発効2周年を祝う広島集会 (NPO協力)
2/22 (水)	YMCAピンクシャツデー (全国YMCA協働)
3/11 (土)	3.11東日本大震災を忘れない追悼の集い(広島市社協協力)
3/24 (金) ~ 28 (火)	「ママ、戦争はいやだ」絵画展示会実施

1) 平和教育活動

広島市の被爆体験を次世代に継承し、世界の紛争地域や被災地域の状況や支援の必要性をオンラインセミナーを通して学ぶ活動を行いました。

①第2～3回Y M C Aユース平和ミーティングの実施

第2回ユース平和ミーティングを行い、40名の方にご参加いただきました。今年度は在日韓国人被爆者のイ・ジョングンさんにお話し、幼少期に差別を受けたことや原爆によって被害を受けたお話を伺いました。

また、核兵器被害だけでなく、日本が行った戦争加害についても在日韓国Y M C Aの田附和久氏からお話を伺い、現在も社会問題となっている課題について学びを深めました。



②平和の灯ろう展の実施

広島Y M C A灯ろう流しは残念ながら、今年も中止となってしまいましたが、8月6日を前に、世界から送られてきた平和メッセージを灯ろうにして、本館1Fロビーに平和の灯ろう展を開催しました。2023年の夏には復活させたいと思います。



③市民平和行進

広島Y M C Aは、生協ひろしまとの共同で、1979年から市民平和行進に取り組んでいます。今年は行進を再開する予定でしたが、コロナ第7波の影響のため、例年通り献花のみの実施となりました。生協ひろしま・広島県原爆被害者団体協議会（被団協）・広島Y M C Aの3団体が参加し、平和記念公園内で行われる献花式に市民グループの代表として参加しました。



④「ママ、戦争はいやだ」絵画展示会実施

第2次世界大戦中にポーランドの子どもが描いた素描画と現在ロシアからの軍事侵攻を受けているウクライナの子どもの描いた素描画の絵画展を、3月24日（金）～28日（火）の期間、広島Y M C A本館1階ロビーで開催しました。

戦時下の子どもたちは同じような絵を描きます。

子どもの心に傷をつけるのは、常に大人ということを強く感じられる絵画展でした。

この絵画展は、日本Y M C A同盟がポーランド大使館のご協力で、被爆地にある広島Y M C Aで開催できないかお願いし実現しました。



◆広島県や広島市（平和文化センター）との協力

広島県と県内の団体が共同で設立したへいわ創造機構ひろしま(Hiroshima Organization for Global Peace/略称:HOPe（ホープ））や国際NGOのICANと広島県が行う「ICAN ACADEMY」の運営に広島Y M C Aは協力しました。

◆広島県生協連との協力「戦争も核兵器もない平和な世界を」

この市民の集いは、核兵器廃絶を願い思想信条を越えて結成された市民6団体が、行政と連帯して「戦争も核兵器もない平和な世界を」めざした取り組みで、広島Y M C Aも市民団体の代表として、また、主催者の1つとして参加しています。

今年度は、松井一實市長から「核兵器のない平和な世界に向けて」というテーマで特別講演をいただきました。広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之氏、広島県生協連理事の大内佳子さんから活動報告がなされました。広島県生活協同組合連合会・広島県原爆被害者団体協議会・広島Y M C Aの事務局が共同し、会の結びに平和アピール文が読み上げられ、満場一致で採択がなされました。

◆核兵器禁止条約発効2周年を祝う平和イベント協力

広島市内で活動するNPOが協力をして、核兵器禁止条約が発効された1月22日に原爆ドーム前で、条約発効2周年を祝うキャンドルイベントが行われました。広島Y M C Aも平和活動NPOの1つとして、この活動をサポートしました。会場の設置やイベントの運営、記録などの役割を広島Y M C Aスタッフやリーダーたちで担いました。

◆地域NPOとの協力

広島Y M C Aは、広島県原爆被害者団体協議会（通称被団協）が行う活動のサポートを行っています。2022年度は「政府に対し核兵器禁止条約への批准を求める署名活動」を行っています。7つの被爆者団体では核兵器禁止条約の発効後、2023年3月末まで署名を集める活動を続けています。2か月に1度街頭署名活動が平和記念公園の元安橋で行われ、核兵器廃絶にむけての地道な活動を続けています。

◆原爆の子の像建立記念式典の再開

1958年に建立された原爆の子の像。5月5日は建立記念日でした。広島Y M C Aは、広島女学院大学・平和創作ミュージカル「I PRAY」の子ども達と協力し、3年ぶりに建立式典を行うことができました。広島Y M C Aを代表して竹井総事が挨拶を行い、広島女学院時代から、この原爆の子の像の式典を守り続けてきた黒瀬真一郎名誉理事長より感謝の言葉が述べられました。



2) 地域奉仕活動

広島YMCAの会員の皆様、ボランティアリーダーの方々と共に、障がいのある子ども達や生活困窮状態にある方々への支援活動、チャリティープログラムを実施し、地域社会への奉仕活動を行いました。

①インターナショナル・チャリティーランの計画

個人や企業を対象に、障がいのある子ども達の支援のためのランニングイベントを企画し、参加費・協賛金を支援活動に充当しました。特に2022年度は実走大会再開のため、広島城ランニングコースでの準備をすすめてきましたが、当日の天候不良のため残念ながら中止とさせていただきました。実走大会の再会は2023年度に行う予定です

日程：11月23日（水・祝） 申込者：168名 協賛：14団体
全国の障がい児プログラム運営に68,040円 支援
YMCA障がい児クラスの活動に158,760円 支援



②Amazon「みんなで応援プログラム」

「みんなでサンタクロースプロジェクト」の実施

Amazonのご協力により、通販サイトを活用したチャリティーキャンペーンを広島YMCAで実施しました。広島YMCAの公益活動で必要としている支援物資をAmazonの通販サイトに登録し、プログラムの趣旨に賛同された方々に購入いただき、支援物資として届けていただく活動を行いました。Amazonのパートナーとして、全国23のYMCAでこのキャンペーンを展開しました。

・主な支援品

学童保育用トランボリン・バスケットリング
一人親家庭支援フードバンク用ジップロック
一人親家庭支援フードバンク用ビニールバック
広島YMCAクリスマス用プレゼント（文具他）



③いじめに反対するピンクシャツデーの実施

2月22日（水・祝）ピンクのシャツや小物を身につけて「いじめ反対」のアピールを行いました。2022年度は100件の写真やいじめ反対のメッセージが届くようになり、参加者はYMCAだけではなく、子ども食堂や地域大学からもあり300名以上となりました。この活動も年々拡大しています。



3) 国際交流・国際支援活動

広島Y M C Aの持つ国際的なネットワークを活用し、国際交流を促進し、合わせて海外からの来広者に対し、被爆地広島の体験を広く伝えました。また、世界で起きる自然災害や紛争地域への人道支援、開発途上国や地域への支援の必要性を広く訴え、日本Y M C A同盟を通じて国際支援を行いました。

①広島-ホノルル青少年交流プログラム (Let's Get Together)

1960年にパートナーシップ締結、1961年から国際交流プログラムとして継続していましたが、コロナ禍による渡航制限のため、派遣・受け入れを中止しました。しかし、2022年度は、2023年度に向けてホノルルと広島のカースがオンラインミーティングで交流するプログラムを実施しました。4月に2回、5月に1回の計3回のオンラインミーティングを行い、それぞれの都市について理解を深める取り組みを行いました。



②広島-ハノーバー青少年交流キャンプ (Global Youth Friendship)

1988年にパートナーシップ締結、1992年から国際交流プログラムとして継続していましたが、コロナ禍による渡航制限のため、派遣・受け入れを中止いたしました。



③広島・フィリピンワークキャンプ

2013年台風30号の被害にあったフィリピンのセブ島を広島の青少年が訪問し、現地の青少年と相互理解を深めながらボランティアを行うプログラムです。コロナ禍による渡航制限のため、派遣中止としておりましたが、2023年度再開に向け、ホノルルY M C Aと協議を行い、年度末の3月11日から20日の10日間、広島Y M C Aの職員2名を現地研修として、セブ島に派遣をしました。通常は、広島の青少年を引率し14日間で行うワークキャンプですが、今回は再開のための調査という事もあり、青少年の引率はせず、10日間の短縮版でセブ島のコロナ禍の状況やワークキャンプの再開が可能かどうかの確認を行いました。



③ウクライナ避難者 日本語教室支援

広島Y M C Aでは2022年7月～8月を1期、9月～10月を2期、12月～2023年1月を3期とし、年間を通してウクライナから避難されている方々への日本語教室を行ってきました。当初、日本語が話せなかった方々も簡単な日常会話ができるようになり、徐々に日本の生活に溶け込めるようになってきました。特に3期は、日本語の日常会話だけではなく、就労に必要な日本語のやり取りについても学び、日本で生活するための職業トレーニングも行いました。



また、2歳の男の子をお持ちの広島在住のウクライナ出身の方のもとに、ご高齢の親族が避難されて来られました。少し介護が必要だったため、子育てのサポートとして、お子様を毎日YMCAでお預かりしました。今後も引き続き避難の方々へのサポートを継続してまいります。



4) 災害支援活動

2022年度の災害復興支援活動は、以下の活動が行われました。

3.11東日本大震災を忘れない追悼のつどい

広島市災害ボランティア連絡調整会議（Y M C Aも加盟団体の1つ）のNPOが協力して、毎年、平和記念公園にある親水テラスにてキャンドルを灯し、東日本大震災で被害に遭った方々を追悼する慰霊のイベントが2012年から続けられています。今年は12年の歴史を振り返りつつ、コロナ禍の収束を迎え3年ぶりに、平和公園の通常のキャンドルイベントを再開しました。それぞれのNPOが集まり追悼集会が行われました。



5) ボランティア・リーダー／ユース育成活動

広島Y M C Aの会員の皆様、市民の皆様にボランティアの機会を提供し、様々な活動を通してボランティアの育成を図りました。また、日本Y M C A同盟が行うリーダー育成事業・ボランティア育成事業に参加する機会を設け支援を行いました。特に2022年度は、ユースリーダーが主体となり全国規模の平和ミーティングを行い、多くのユースやスタッフが平和について学ぶ機会を提供しました。（関係報告P4）

また、全国的なユース研修にリーダーを派遣し、広島におけるユースエンパワメントの醸成に努めました。

◆日本Y M C A大会にスタッフ・ユースを派遣

Y M C A東山荘を会場に、2022年11月25日（金）～27日（日）で行われ、ブランディング開始からコロナ禍を経て「みつかる。つながる。よくなっていく。」をテーマに、Y M C Aの今を見つめる3日間を過ごしました。広島からは、レイパーソン・スタッフ・リーダーを派遣しました。



◆全国規模の研修会や大会にY M C Aリーダーを派遣

熊本県阿蘇にある熊本Y M C Aキャンプ場で開催されました。講師に宮台真司氏をお招きし「私たちが生きる社会について」をテーマに2泊3日のトレーニングが行われました。全国のY M C Aで活動するユースリーダー・スタッフ約80名（広島Y M C Aからは4名）が阿蘇に集まり、充実した学びの場を提供することができました。



◆国連環境トップ インガー・アンダーセン女史との交流

国連環境計画事務局長であり国連事務次長であるインガー・アンダーセン氏が広島を訪問し、被爆者や若者との対話集会が開催されました。対話のテーマは“平和と環境”。対話集会のメンバーにY M C Aの国際リーダーも選ばれ、環境に関するSDGsの質問を英語で行い、アンダーセン氏にアドバイスをいただきました。これからのリーダー会の活動に大いに活かされることと思います。



6) 協力団体との活動

◆世界YMCA/YWCA合同祈祷週 広島集会

世界のYMCAとYWCAは1904年以来、11月の第2週を合同祈祷週とし、毎年一つのテーマを決めて世界各地で礼拝や集会を行っています。「Ignite: Praying the Impact（運動の拡がりに火をともし～祈りによって）」をテーマに11月19日（土）の午前中、呉YWCA、広島YWCAと共にオンラインで祈りの時を持ちました。澤村チャプレンが合同礼拝を担当し、その後、「るうてる食堂クレヨン」を主催している、日本福音ルーテル広島教会の立野牧師が活動の報告を行いました。



◆「るうてる食堂クレヨン」との協力関係継続

2021年から始まった日本福音ルーテル広島教会の子ども食堂「るうてる食堂クレヨン」に広島YMCAは協力し、食材や調理資材の支援、記録や動画作成のサポートを行っています。またこの食堂では、YMCA留学生の食事のサポートや国際リーダー会の活動の場を提供しており、YMCAと教会が協力し、地域コミュニティの形成に力を注いでいます。2022年には広島女学院大学も加わり教会・大学・YMCAでの運営強化に努めています。



◆「キッズ防災士」養成 防災キャンプの実施

豪雨災害の危険性が高い広島県において、子どもたちの防災に関する知識を高める目的で、今年度初めて「避難所宿泊体験プログラム」を実施しました。ひろしま防災減災支援協会の協力により、防災のための基礎知識やハザードマップの確認、災害が発災した時に持ち出す道具のパッキング、段ボールボットの制作なども体験し、参加の子どもたちは楽しみながら防災の知識を学ぶことができました。参加者には「キッズ防災士」の認定書が贈られました。



◆広島女学院大学 澤村雅史牧師、YMCAチャプレン退任

年度末の3月17日（金）、2022年度の最後のYMCA礼拝が行われました。2014年から9年間、広島YMCAのチャプレンを務めた広島女学院大学の澤村雅史牧師が3月末をもって広島を離れ、名古屋に異動ということで最後の礼拝が行われました。広島YMCAからは感謝の意を込めて花束をお贈りし、澤村牧師からは、次年度の礼拝で朗読するための聖書をいただきました。広島YMCAの多くの公益活動において、祈りをささげていただき、クリスチャニティーを支えていただいたことに心から感謝申し上げます。





みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人 広島YMCA

〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 Tel 082-228-1151 Fax 082-211-0366